

緊急報告・万葉文化館の改変問題

000 あらすじ：今日までの経過と問題点

- 1、万葉文化館は、そのユニークな研究調査活動と展示情報機能が、多くの研究者、万葉ファン、教育者、識者等に評価・愛用されて、毎年おおむね 10 万人以上の入場者を迎えるという、この種の常設展示施設では注目される文化施設として、全国に存在感を誇ってまいりました。
- 2、他方、数年前に、万葉文化館を歴史展示の拠点施設に転用する計画が進められておりました。

この転用は、多くのファンを悲しませ、奈良を象徴する文化施設を失う、県外からの修学旅行客の目的地を失う、中南和活性化の重要拠点を潰すなど、奈良県の文化政策及び地域振興に多大のマイナスを来たすと考えられました。
- 3、そこで、昨年 4 月再選後の奈良県知事殿にお会いし、小生の意見書及び参考資料を提出して、万葉文化館の設置趣旨や特徴をご説明しました。結論として、万葉文化館の性格や趣旨は変えず、現状を維持する旨のお答えをいただきました。

以上の 1～3 までの経過については、「**200 第 2 部 万葉文化**

館の転用計画と反対の経緯（平成23年4月まで）」に、その詳細を記載しています。

- 4、ところが、今年春に万葉文化館に併設されていた万葉古代学研究所を突如廃止し、万葉古代学係だけが残されるという、甚大で深刻な改変が実行されました。

万葉古代学研究所は、条例に定める設置趣旨及び担当事業から見ても、万葉文化館の中軸となる活動を責務としておりましたが、その責任者を不在とした現状は、片肺飛行や尾翼喪失の迷走飛行を強いるものであり、早晩万葉文化館の特徴や評価を衰微させる結果を待つほかは無くなります。

- 5、奈良県の中山悟地域振興部長兼万葉文化館長ほか2名の当局責任者に対し、その主旨を口頭でも再三説明し、平成24年7月7日には改めて書面に趣旨を記載して手渡し、丁寧に理解を求めました。しかし、中山館長からは、中山氏等の事務職と万葉古代学係の3名の研究員で研究活動を執行する旨の返答のみが繰り返されました。別途、奈良県知事にも当局責任者に適切にご指示をいただくようお願いの文書を届けましたが、1月経過しても返答に変化はありませんでした。

6、 このまま万葉文化館の特徴が衰微していく方向を座視して見守ることは許されないと考え、止むを得ず万葉古代学研究所廃止の問題点を改めて公式に指摘し、同所の復活を含めた提言を致したものであります。

7、 しかし、平成 25 年新年度に至りましても、小生の提案事項についての対応策は何ら実施されないままでありますので、確認の趣旨で奈良県知事殿に再要望を提出いたしました。

以上の 4～7 に関して関係方面にお届けした意見書、陳情書、
お願い、説明資料等は、「**100 第 1 部 万葉古代学研究所の廃止の問題点と対応策**（平成 24 年 3 月から）」に、その詳細を記載しています。

<それぞれの青字部分をクリックすると、そのページが開きます。>

<ホームページのトップに戻る>